



p5-6__サポセンの事業報告

p6__[チャレンジャー]
DIO 選挙プロジェクトまつど

p6__サポセン新規届出団体

p7__[スタッフコラム]
「子ども食堂」が要らない地域に

p8__[ある日のサポセン]
誰でも話しやすい会議って、
工夫してつくれるの？

特集 p2-4

町会・自治会って、
なにしてるの？



特集

町会 CHOU-KAI

自治会 JICHI-KAI

なににしているの？

町会・自治会って、名前は知っているけれど
 実際に何をやっているのかはわからない…
 そんな感覚をお持ちの方も多いのではないのでしょうか？
 実は、私たちの日々の暮らしのために、
 とても大事な役割を担っているのが町会・自治会。
 最近では、既存の枠を超えた新しい動きも出てきています。

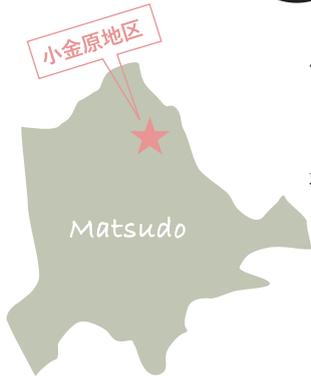
お話を伺った方々



岩崎義仁さん
 (小金原地区会
 まちづくり部事務長/
 小金原7丁目
 西町会会長)

洪谷寛之さん
 (小金原地区会
 まちづくり部部长/
 小金原9丁目
 町会会長)

今回は、独自に「まちづくり部」という部を設置して、
 各町会の枠を超えた取り組みを展開している
「小金原地区会まちづくり部」
 渋谷さんと岩崎さんに、お話を伺いました。



小金原地区って、どんな地域？

- ★松戸市北東部に位置。おおよそ新京成線「常盤平駅」や常磐線「北小金駅」に挟まれたエリア。
- ★地区中央付近には、1960~70年代に建てられた広大なニュータウン「小金原団地」が広がる。市内でも、高齢化と人口減少が急激に進むといわれている地域。

小金原地区内の全18町会



小金原地区会

地区全体での取組みが必要なことについて話し合い、実行



発端は、松戸市の公共施設再編課から、「公共施設再編化計画(※注1)をつくるにあたって、小金原地区の住民のニーズや考えを聞く場をつくってほしい」という話があり、地区会として取組むことになったことです。
 でも、せっかくならこの件に限らず、一つの町会だけでは解決できない、小金原地区に共通するまちづくりの課題に対して積極的に取り組んでいこうと、各町会に関わるメンバーで声を掛け合って、2017年にまちづくり部を発足させました。現在は、自分たちを含む5人の役員が中心となって事務局を担っています。地区会内には他にも、防災部と防犯部があります。

なるほど！その地区会の中に設置されているのが、「まちづくり部」というわけですね。立上げのきっかけは何だったのでしょうか。

小金原地区は北は根本内町会から南の栗ヶ沢連合町会までの18町会で構成されています。その18町会が集まって作っているのが、小金原地区会(旧・小金原連合町会)です。一つの町会だけでなく、地区全体での取組みが必要なことについて話し合い、実行しています。

「まちづくり部」が属している地区会って、町会とはまた別物なのですか？

「地区会」ってなに？

(※注1)公共施設再編化計画とは
 施設の老朽化・各地域の人口構成の変化を踏まえて、小中学校等の教育施設や各種公共施設等の公共機関の再編整備を進める計画。現在、市内で3つのモデル地区が選定されており、小金原地区もその1つになっている。





↓まちづくりワークショップの様子
高齢の方から若い方まで、幅広い年代の参加者が集まっている。



↑ワークショップの告知チラシ



←まちづくり講演会の様子
2018年3月4日に「誰もが安心して暮らし続けることのできる社会づくり」と題し、大阪のNPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝の方を招いて開催した際の様子。なんと、2017年にサポセンで行った講座(2017年8月31日発行のぼっく No.9を参照!)に参加したある住民が講師の話に感銘を受け、まちづくり部として呼ぶことを提案。実現に至ったとのこと。

「やりたい人が、やりたいことを。」

今、具体的に何を行っている事業はどんなものがありますか？

今年度は大きく次の3つの事業に取り組んできました。

1 市の公共施設再編課と協働で行っているまちづくりワークショップ

住民から様々な声を集めるために、一昨年から、他の地域でまちづくりを実践されている方を招いての講演会や、地域の未来について考えるワークショップを行っています。高齢の方から赤ちゃん連れの若い方まで参加いただいています。世代や立場によってさまざまな意見が出ますね。これらの声を市に届けて、今後の市の公共施設再編に関する計画に活かしてもらおう予定です。

2 フラワーロード事業

栗ヶ沢中学校前の道路のグリーンベルトに、花を植えていこうという取り組みです。この道路はちょうど複数の町会が面しています。緑が好きなる住民が発起人となり、月2回程度の花の手入れや年数回の植込み等住民有志で行っています。



↑花の植込みの様子

3 コミュニティバス事業 (※渋谷さんが発起人)

実は近年、地域内で複数のバス停が廃止されてしまっていて、買物難民状態になってしまった方が多数いらっしゃるんですね。病院に行くにも、車だったら10分なのに、電車とバスを乗り継ぐと1時間ほどかかってしまう場合も。そこで、地域を巡回するコミュニティバスを導入できないかと、まずは検討を始めたのです。

今年度は、東京大学の都市計画の研究室の先生や学生さんと連携して、小金原Q丁目の住民を対象に、日々の移動手段に関するアンケート調査を行いました。その他、既存の路線バス運行会社との意見交換や、コミュニティバスを導入している他の地域への視察も行っていました。

こうした事業は基本的に、「やりたい!」と提案した人がリーダーになって、ひっぱっていく仕組みになっています。最近新しく提案されて、少しずつ動き出している取組みもありますよ。



「会合は、誰でも自由参加!」

その他に、運営面で何か気を付けていることはありますか？

まちづくり部の会合は誰でも自由に参加できるようにしています。普段は会社勤めをしている人でも来られるように、開催日も基本的に土日です。

活動内容やイベントの当日資料、会合の議事録も、すべてホームページで公開しています。

気軽に交流できるLINEグループもつくっていて、現在55名(2018年1月21日時点)が登録しています。まちづくり部からの案内を流すだけでなく、各自が関わっているイベントの案内等を、自由やり取りできるようにしています。

まちづくり部のHP
<https://buildk.weebly.com/>



町会・自治会とは？

町会・自治会とは「地域に住む人たちが親睦や交流を深め、支え合い助け合いながら、より住みやすい豊かな地域づくりのために、防犯・防災・環境美化・福祉・レクリエーションなどさまざまな活動をしている自主的に組織された任意組織」のことです。(松戸市リーフレットより)

町会と自治会の明確な定義はありません。実はどちらでも、好きな方の名前をつけてよいことになっています。正確に言えば、あくまでも自主的な任意組織なので、「町会」「自治会」という名称にこだわらず自由な団体名をつけてもよいそうです。ただし慣例として、町会や自治会といった名称が一般的になっています。

実際に行っている活動内容は各会によりさまざま。地域が必要だと思うことを、各会で検討し独自に行っています。あくまで住民主体の自主組織で、行政組織ではありません。ただ公益的な性質が強いので、実際には行政とも緊密に連携しています。

市内には、354の町会・自治会があります。(2019年3月1日現在・松戸市把握)
加入率の低下、役員の高齢化といった厳しい現状もある一方で、工夫して新しい活動を始めることや、町会・自治会がない地域やマンションでは、新しく立ち上げようとする動きもあります。

でもらうかを考えています。

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで



地域での活動をはじめた

きつかけ・続ける秘訣

そもそも、お二人はなぜ町会活動に関わるようになったのですか？

岩崎・私も以前は、特に地域への関わりはありませんでした。しかし13、14年前、娘がまだ小学生だったときに、近隣で物騒な事件が起きてしまったんです。この地域は安全だと思っていたのに驚いて、どうしたものかと、まずは小中学校のお父さんたちでやっている「小金原おやじの会」に入りました。それと並行して、できるだけ地域の防災活動（栗ヶ沢中学校地域防災委員会、略して栗防）や、住んでいる地域の町会（小金原7丁目西町会）の集まりにも参加し始めました。そうしたら、3年前の町会総会で「会長をやらなにか？」と、指名をいただき、それではとお引き受けしました。今は、楽しく有用な町会行事を充実させ、より若い世代を呼び込み、引き継いで



渋谷さんは48歳、岩崎さんは53歳。普段はお仕事もされていますよね。両立は大変ではありませんか？

渋谷・いや、楽しいですよ。また活動する中で、自分の地域なんだから自分たちでやらなきゃ、という気持ちになってきました。それと自分の性格上、動いているのが性に合っているというのもあるかな。祭りの手伝いとか好きですね(笑)仕事も自営業で、一般の会社勤めの方よりは時間の融通がききやすいかもしれません。

岩崎・私も研究職という仕事柄、比較的時間の調整が付きやすいのはありますね。今後は一般的な会社員でも町会活動に参加できるように広げていきたいです。そして個人的には、これから死ぬまでこの地域で生きていく予定なので、少しでも地域に貢献していけたらなあという気持ちでやっています。

少なでも地域に貢献していけたらなあ

こんな知らない世界があったのか！

終始なごやかに、楽しそうにお話くださったのが印象的でした。地域の課題は複雑かつ広範囲で、なかなか特効薬はありません。そんな中で少しずつ、地域内の各町会に青年部が発足して若い方の参加も増えるなど、新たな芽も出てきているとのこと。まちづくり部の今後の展開から目が離せません！

岩崎さん

渋谷さん

自分たちの地域は、自分たちでつくる

もっと知りたいと思ったら？

自分が住んでいる地域の町会・自治会がわからない！

新しく、自分たちで町会・自治会を作って盛り上げたい！

こんなことを思ったら、松戸市市民自治課までお問合せください。今ある町会・自治会のこと、活用できる制度のこと等、教えてくれますよ。

松戸市 市民部 市民自治課

電話：047-366-7318

FAX：047-366-2447

まちづくり部としての、今後の展望は？

やりたいことは山ほどあります。立ち上がったってまだ2年目。まだまだこれからという段階です。ひとつあげるとすれば、地域の方々にもっと伝わる情報発信を工夫して、新しい方にも来てもらいたいですね。でも、まずは一歩ずつです。10年かかってもいいので、引き続き地域の方の理解や協力をいただきながら、若い方ももっと巻き込んで、少しずつ地域を良くしていきたいです。

松戸を手づくりで面白くしよう！ まつどみらい会議 2018

近年、多くの地域で開催されている「フューチャーセッション」は市民や行政、企業や専門家など色々な人が集まり対話する未来志向の場。今年4年目となる「まつどみらい会議」では、26団体がポスター出展を行い、100名を超える来場者が参加し、様々なテーマについて松戸で実現したい未来に向けた対話が行われました。

今年のテーマ上位5位

- 「お散歩するのに便利な松戸のマイクロマップをつくり隊」
- 「地域通貨『ありがとう』を子ども達と一緒に実現する！（みらいフェスタで）」
- 「ヤングとシニアの協働について」
- 「商店街や公園で屋台村を定期開催したい！」
- 「障害の有無に関係なく共生する社会をつくる」

他にも、「あたりまえを見直す、哲学対話の場」、「政治や選挙について話しやすい環境とは？」など、多様なテーマをもとにした対話が行われました。これらのプロジェクトが実現するよう、センターでも応援していきます！

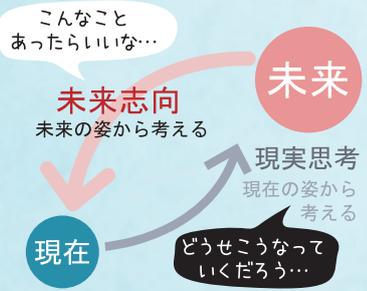


また今年も、9〜12月の期間サポセンのインターンシップに参加した千葉大学の小溝あかりさん、樋本ゆき乃さんが「まつどみらい会議2018」を同世代にも興味を持ってもらうための新企画として「Instagramで松戸の好きな場所の写真を投稿してもらおう」まつどフォトコンテスト」の提案・企画運営を担当しました。お2人がまつどみらい会議に関わった感想を紹介します。

初めてまつどみらい会議の説明を聞いたときは、全体の参加人数が少ないのではないかなど、少し不安がありました。しかし、実際には多くの参加者で朝から会場が賑わっており、それぞれどんな街を作ってきたいかという考えを積極的に話していました。みらい会議で発表することで、自分以外にも同じことを目指している人がいると知ることができたのは心強いと思います。

また、私たちが企画したまつどフォトコンテストについては、活動を広めることの難しさを痛感しました。しかし、一人では難しくても多数で協力することで、みらい会議で出た案が実現したという例も聞いたので、やはり新しい企画を通してイベントの存在を知ってもらえることは大切だと思います。

最後に、みらい会議の特徴である未来志向の考え方は、まちづくりにおいてとても役立つと思います。今後、も学生という立場から、自分たちの考えを積極的に伝え、地域のまちづくりに向けて活動していきたいです。



今年で4回目！
26団体・100名超の
来場者が集いました！



Challenger



〈チャレンジャー〉
市民活動団体紹介

DIO 選挙プロジェクト まつど

お問合せ

DIO 選挙プロジェクトまつど (代表 土岐金成)
 ✉ E-mail info@diomatsudo.net
 twitter、facebook ページ @diomatsudo
 HP https://diomatsudo.net/

選挙や政治をもっと身近に、
 「自分たちの問題」として考えることができる
 環境づくりを目指しています。
 投票のきっかけとなる情報の提供と
 政治や松戸の未来について
 考えの異なる市民同士が
 語り合う場づくりを
 精力的に行っています。



公園で対話イベントを行ったり
 立候補予定者をお呼びして
 松戸の未来について
 話し合ったりしました。



どんなことに取り組んでいるんですか？

「投票率向上」と「政治や選挙を私たちの問題と
 考える環境づくり」を目指しています。具体的には、
 市民同士や市民と候補者の対話の場を設けたり、
 投票所への道のりを示すカラフルな矢印を掲示し
 たり、ネット上で情報発信をしたりしています。

この活動を始めたきっかけは何ですか？

知人からの提案が直接のきっかけです。もともと
 と、地方政治への関心があり、市長選・市議選の2
 つの選挙がある2018年に
 何かアクションを起こしたい
 など思っていました。



活動してみて気づいたことは？

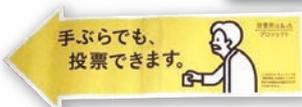
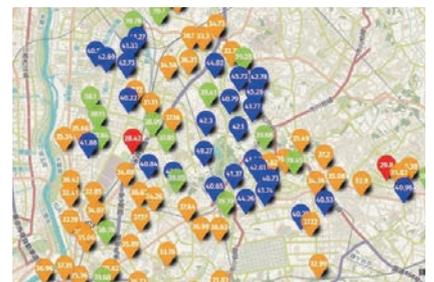
ひとつのアプローチがどういう効果を上上げるか
 は、やってみないと分からないということです。投
 票所への矢印を商店等に貼っていたらプロジェクト
 を実施した地域で、男性の投票率がアップし
 たのは意外でした。

今後チャレンジしていきたいことは
 どんなことですか？

4月には統一地方選があります。当団体では
 7日の千葉県議選に向けてアクションを行います。
 会員やボランティアを募集していますが、選挙期間
 が春休み期間と重なるので、学生さんたちにも
 協力いただくと嬉しいです。特に「選挙に関わる
 風景」を写真に撮ってネットにアップしていただ
 ける方を何名か募集したいと思っています。



データから見る選挙情報を
 ネット上から発信しました。



投票所への道のりをカラフルな矢印で示したら
 その地域の投票率が上がりました。



サポセン 新規届出団体 を紹介します！

(2018年11月14日
 ~2019年1月31日
 届出順・敬称略)

- ★松戸市自情勉強会
- ★メディカル・ウォーキング倶楽部
- ★日神パレステージ松戸管理組合
- ★クロダマハウス
- ★親子ふれあいサークル Luana
- ★MAISON IZARRA oyatsu labo * T naturel
- ★日本二分脊椎症協会 千葉支部
- ★特定非営利活動法人健康サポーターJAPAN
- ★花を愛でる会

スタッフコラム

「子ども食堂」が要らない地域に

「子ども食堂」がメディアで取り上げられ、今ではかなり知れ渡って、名前を知らない人が少なくなったかな、と思う反面、誤解されている、と思うことも多々あり、今回取り上げてみました。

まつど市民活動
サポートセンター
副センター長
山崎恵



はじめは、大田区の八百屋だんだんで始めた近藤博子さん。自分のお店を利用して、地域の人が集うスペースをつくり、そのスペースのメニューのひとつである「子どもたちと一緒に食事をする場」を「子ども食堂」と名付けたのが始まり。その取組みをモデルに豊島区で広げた人がいて、メディア報道されたこと、併せて担い手たちの発信力の強さから、爆発的に広がり、今では全国で4000近いとも言われています。

各現場では立ち上げ当初、行政関係とのやりとり等で諸々苦労を強いられたものの、国の動きとして2018年夏頃に、厚生労働省からは運営上の留意点の通知、文科省からは学校現場に向けた協力連携の通知、農林水産省は食育推進の視点からの活動紹介などが行われ、活動しやすい環境が整えられつつあると言えるのではないのでしょうか。

松戸市内では、2016年2月に1か所目が誕生し、約1年後には10か所に。現在では、まつど子ども食堂の会というネットワーク組織でつながっている数が11、その他にも実質的に「子ども食堂」的な活動をしている場も含め、松戸市内には現在、14、5か所ほどあるようです。



といっても、定義やルールがあるわけではなく、よく言われるのが「子ども食堂？高齢者もいるよね。」とか「テレビで見かけた貧困家庭はここには来ていないんじゃない？」という言葉。まつど子ども食堂の会では、子ども食堂を「子どもが1人でも来ることができて、食を通じて地域や人々がつながる居場所」としていて、「人暮らしの高齢者がいてもいいし、ファミリーで来ること全然OK。場所や運営方法も多種多様で、居酒屋、市民センター、町会集会所、NPOのサロン、自宅など。来る人も数人から100人以上まで、学習支援の有無、子ども企画、運営者の年代も様々。自分たちの意思で運営しているからこそその多様性が子ども食堂の特徴でもあります。

確実に言えるのは、活動が2年以上経過した中で、この場を必要とする子どもたちが大勢いる、ということ。そして場を作る大人たちの居場所にもなっていて、食堂を中心として地域のつながりが新しく生まれ、層として厚くなっていることを実感しています。

子ども食堂の生みの親の近藤さんは、「子ども食堂という活動が地域から要らなくなるのが理想だよね」とつぶやきます。つまり、地域全体が子ども食堂のようにいろんな人がごちゃ混ぜで、居心地の良い場所になること。それに尽きるなー、いつも思い出す言葉です。

「子ども食堂」興味ある方はぜひ足を運んでみてください。

まつど子ども食堂の会とは

松戸市内で子ども食堂を運営・支援している仲間の会です。子ども食堂設立のお手伝いや続けていくための情報交換、ご寄付いただいた食材などの分かち合いなどを通してそれぞれの特徴を尊重しながら共に地域の「居場所作り」を目指していきます。

「子ども食堂」にルールはありません。
食堂ごとに、運営や活動内容が違い、特色があります。

- 手伝いたい人、立ち上げたい人、気になった食堂に足を運んでみてください。
- 必要としている人がいたら、紹介してあげてください。
- 既にやっている人、ぜひつながりましょう！

まつど子ども食堂の会ホームページ
<https://mksnokai.jimdofree.com/>



- | | |
|---------------|---------------|
| ① しがねはS子ども食堂 | ⑦ 小金っ子食堂 |
| ② de あい・こども食堂 | ⑧ とまわ平こども食堂 |
| ③ 新松戸 みんなの食堂 | ⑨ まんぶく小屋 |
| ④ 陣が前わいわい食堂 | ⑩ こどもカフェ |
| ⑤ 明地区こあら食堂 | ⑪ はなしまみんなでごはん |
| ⑥ 小金ほのぼの食堂 | |

※ 出典…まつど子ども食堂の会 HP



皆さんにサポセンのことや市民活動のこともっと知ってもらうために、これまでに寄せられたご質問や実際の出来事などをもとに、仮想のストーリーに仕立てた「Q&A風」のコーナーです。

誰でも話しやすい会議って、工夫してつくれるの？

「誰でも話しやすい会議の作りかた」の講座に参加してきた、ちよっと張り切り過ぎちゃっう高杉くん(学生サークル代表)グループで話しあっているときに発言しづらそうにしている同い年の真嶋くん(学生サークル代表)と出会いますが…!?

1 …皆さん!もう少し時間があるのでもっと話してみませんか? **付箋を3枚ずつ渡すので、書いてから共有していきましょう!**

…これだったら自分も参加しやすいかも! あ、このアイデアも足してみよう…

スラスラ書き出してる! こうして先に意見をそれぞれ場に出してから共有すれば、誰かの意見が漏れることもないんだな。

2 この班はもうまとまったんですか?

はい!ばっちりまとまりました!

じゃあ折角だから、他の班のテーブルも見てきたらどうかな?

3 高杉くん、他の班の会議を研究しに!

おおー、ここは付箋を使って意見をたくさん出したのか。その際は全員が納得するまで話す…やり方も色々あるんだなあ。コツとかも聞いてみるか!

4 あー、いや、僕のは特に…意見出すの苦手で、みんな納得してるしいいかなど…

高杉くんがまとめてくれそうだからいいかっつて感じだったよなあ…

5 意見が無いわけじゃないんですけど。後から違うこと言っただけで、嫌がられるの、怖いじゃないですか。

真嶋くん…!? 会議では黙ってただけ意見が無いわけじゃなかったんだ…

一層つてきた高杉くん

私ももっと学んで、誰でも話しやすい会議を作れるようになりたいって今日感じたよ。喜んで!

他にも、会議の工夫はたくさんあります。活動のちょっとしたスキルが学べる「よろず相談室」シリーズは毎月開催中ですので、ぜひサポセンHPやFBをこまめにチェックしてくださいね♪



高杉くん



コーディネーター



真嶋くん

サポセン ニュースレター ぽっく

第15号(2019年早春号)

発行日: 2019年3月1日(※年4回発行)

発行元: まつど市民活動サポートセンター(指定管理者 NPO 法人まつど NPO 協議会)

デザイン: トクナガリツコ

「ぽっく」の主な設置場所

松戸市内の図書館、市民センター、公民館など各種公共施設の他、松戸駅自由通路に設置しています。

「ぽっく」設置協力店

デジラボ(本町)/ Sampo Café(八ヶ崎7丁目)/ 古民家ホームシェア co-no-mi(吉井町2丁目)

「ぽっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します!

ニュースレター「ぽっく」を、お店や施設に配架していただけますか? ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。広告掲載も募集中です。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

編集後記



もうすぐ娘の幼稚園の謝恩会です。卒園対策委員になり、忙しいけど楽しい日々です。「ラクにやろう」と皆で言いつつも、3年間お世話になったという想いが募り、つい熱くなる委員の仲間達です。(菊)

まつど市民活動サポートセンター

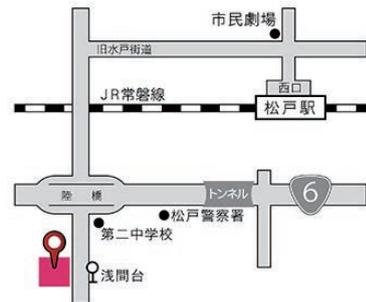
〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)

TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636

E-mail: hai_saposen@matsudo-sc.com

URL: <http://www.matsudo-sc.com/>

facebook: <https://www.facebook.com/matsudo.sc>



◎開館時間: 月曜~土曜 9時~21時

日曜 9時~17時

◎休館日: 第1・第3水曜、年末年始(12/29~1/3)